

メール誤送信防止アプリ「Nazori Mail Checker」

メール送信時にメールアドレスや添付ファイル等の重要な情報を、「指」という身体の一部で「なぞる」動作を行うことで意識的に文字列を確認する独自の方法を考案し、メール誤送信防止アプリ「Nazori Mail Checker」として開発、2016年にKDDIグループの業務への適用を図った。

情報漏洩の原因の1つとして、メール誤送信による顧客情報（メールアドレスなど）や機密情報（添付ファイルなど）の漏洩が問題となっている。一般的なメール誤送信を抑止する方法として、メール送信時にメールアドレス等の情報漏洩につながる重要情報をダイアログに表示し、目視で確認する手法や複数人で確認を行う手法がある。しかし、それらの確認動作は習慣化しやすく、確認そのものが無意識且つ機械的になる場合が多い。結果としてメール誤送信による情報漏洩は無くならない。この課題を解決するため、メールを送信する際に、確実な確認動作を実行する（させる）ための手法としてなぞり操作を考案した。アプリの開発に着手する前に、「なぞる」動作の効果検証を実施した。目視による確認動作に比べ、なぞり操作を用いた確認動作では誤りの発見率が最大35%向上した。この効果検証を踏まえ、メール誤送信防止アプリを開発し、KDDI社員に約6か月間試行導入した。その結果、これまで発生していたメール誤送信の発生が無くなり、その導入効果が現場でも認められた。これを契機に正式に社内提供が開始された。2016年7月からはメール誤送信防止アプリ「なぞりメールチェッカー（Nazori Mail Checker）」として製品化、販売を開始しており、2022年現在で数万IDのライセンスを提供し、業務に欠かせないアプリケーションとなっている。

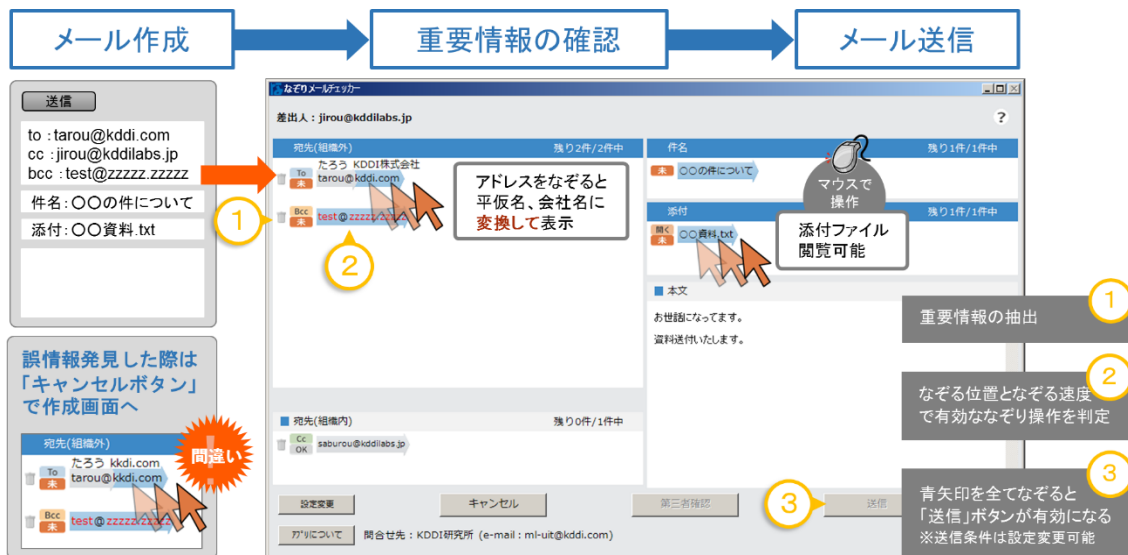


図 メール誤送信防止アプリ「Nazori Mail Checker」の実行画面